

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	(公財)佐世保地域文化事業財団	
施 設 名	アルカスSASEBO	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額(総額)	27,893	(千円)
公演事業	16,791	(千円)
人材養成事業	6,745	(千円)
普及啓発事業	4,357	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	エディット・ピアフ没後55周年トリビュートコンサート ジル・エグロ～バラ色の人生～	5月26日(土)	【出演】ジル・エグロ(ヴォーカル)、ギノ・サミン(ピアノ)、かとうかなこ(アコーディオン)	目標値	400
		中ホール		実績値	407
2	セレノグラフィカ コンテンポラリーダンス公演 とこしえに～ARKASで～	6月15日(金)	【出演】セレノグラフィカ(隅地菜歩、阿比留修一)	目標値	250
		イベントホール		実績値	74
3	吹奏楽 meets JAZZ Shion×松永貴志	6月30日(土)	【出演】松永貴志(ピアノ)、坂井美保(ベース)、佐藤英宜(ドラム)、西村友(指揮)、オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ(吹奏楽)	目標値	1,000
		大ホール		実績値	570
4	レジデンス弦楽四重奏団アルカス・クァルテット 第8回定期演奏会	7月21日(土)	【メンバー】川崎洋介(第一ヴァイオリン)、西野ゆか(第二ヴァイオリン)、柳瀬省太(ヴィオラ)、辻本玲(チェロ)	目標値	300
		中ホール		実績値	198・152
5	アルカス九十九島音楽祭2018	8月18日(土)・19日(日)	全館を使用して行う夏の一大音楽イベント。今回は102組の市民演奏家5組のゲスト演奏家が大・中・イベントの各ホールで演奏を行った。	目標値	10,000
		全館		実績値	18,362
6	アルカスジャズカフェ牧山純子ジャズヴァイオリンライブ	8月31日(金)	【出演】牧山純子(ヴァイオリン)、Tatsuya(ピアノ)、佐藤慎一(ベース)、ジーン重村(ドラム)	目標値	180
		イベントホール		実績値	153
7	読売日本交響楽団	9月7日(金)	【出演】ジョセフ・パスティアン(指揮)、神尾真由子(ヴァイオリン/ソリスト)、読売日本交響楽団(管弦楽)	目標値	1,100
		大ホール		実績値	725
8	ハイバイ 全国ツアー「て」	9月15日(土)・16日(日)	【出演】浅野和之、平原テツ、田村健太郎、安藤 聖、岩瀬 亮、長友郁真、今井隆文、能島瑞穂、湯川ひな、佐野剛、松尾英太郎、猪股俊明	目標値	240
		大ホール特設劇場		実績値	229
9	タイムファイブ結成50周年コンサート「Favorite Collection」	12月23日(日)	【出演】田井康夫、野口鎮雄、勅使河原貞昭、吉村晴哉、杉江浩平、相原秀章	目標値	320
		イベントホール		実績値	173
10	結成30周年記念公演 社会風刺コント集団「ザ・ニュースペーパー in 佐世保」	1月19日(土)	【出演】ザ・ニュースペーパー 竹内康明、松下アキラ、福本ヒデ、山本天心、浜田太一、石坂タケシ、土谷ひろし、桑山元、田中学	目標値	500
		イベントホール		実績値	557
11	アルカスSASEBOオリジナル室内オーケストラ チェンパー・ソロイスト・佐世保	3月24日(日)	【出演】音楽監督：豊嶋泰嗣(ヴァイオリン)、ソリスト：中野 振一郎(チェンバロ)、朝永 侑子(ハープ)ほか全22名	目標値	446
		中ホール		実績値	304
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	14,736
				実績値	21,904

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アルカスSASEBO ジュニアオーケストラ	通年	【第6回定期演奏会】4月28日(土) 【出演】清水靄輝(指揮)、アルカス SASEBOジュニアオーケストラ(管弦 楽)	目標値	1200・120
		アルカスSASEBO		実績値	1300・96
2	アルカス演劇さーくる	通年	【公演：マгноリアの花たち】10月19 日(金)、20日(土)ほか 【ワーク ショップ：高校生エンゲキ体験】平成 31年2月23日(土)、24日(日)	目標値	253
		アルカスSASEBO		実績値	427・36
3	アルカスSASEBO ホールボランティア	通年	【登録者】53名	目標値	70
		アルカスSASEBO		実績値	53
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	1,643
				実績値	1,912

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、 スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ドレミであそぼう!~3 才からのクラシック~	4月30日(月休)	【出演】アートムジカ(Pf:田中美江、Sop:小野弥生、画家:保坂真紀)、九州交響楽団メンバー(木管5重奏)	目標値	286
		イベントホール		実績値	348
2	アルカスSASEBOこどもの 日スペシャル「子ども ミュージックマラソン」	5月5日(土祝)	【参加者】小学6年生までの100人(64組)	目標値	500
		中ホール		実績値	700
3	ドレミであそぼう!~0 才からのクラシック~	7月7日(土)	【出演】新崎誠実、新崎洋実(ピアノ デュオ・司会朗読)	目標値	286
		イベントホール		実績値	318・21
4	アルカスSASEBOホール探 検ツアー2018	7月24日(火)	【参加者】 午前の部29人(+同伴保護者25人) 午後の部28人(+同伴保護者24人) プレツア-53人(+同伴保護者32人)	目標値	110
		大・中・イベントホール		実績値	110
5	ランチ&ナイトタイムコン サ-ト「講談」と「アコー ディオン」の共演 玉田玉 秀齋×かとうかなこ	9月14日(金)	【出演】 玉田玉秀齋(講談) かとうかなこ(アコーディオン)	目標値	600
		中ホール		実績値	228
6	アルカスSASEBOロビーコ ンサ-トスペシャル2018	9月22日(土)	【出演】坂口芙蓉(Pf)、アルピオ ン・クラリネット・ヴァリエ(Cl)、上 野裕介(C・G)、ヴォーカルアンサンブ ル ENISHI(w-chor)	目標値	400
		中ホール		実績値	393
7	ランチタイムコンサート vol.18 「中鉢聡テノー ルリサイタル」	11月9日(金)	【出演】 中鉢聡(テノール) 瀧田涼子(ピアノ)	目標値	300
		中ホール		実績値	320
8	アルカス「キラっ都」さ せぼファミリーコンサ-ト	3月2日(土)	【出演】 清水醒輝(指揮)、アルカス「キラっ 都」オーケストラ(管弦楽)	目標値	1,080
		大ホール		実績値	384
9	ランチタイムコンサート vol.19 和谷泰扶 クラ シック・ハーモニカの室 内楽	2月22日(金)	【出演】和谷泰扶(ボタン式クロマ ティックハーモニカ)、和谷麻里子 (ピアノ)	目標値	300
		中ホール		実績値	396
10	アルカスSASEBOロビーコ ンサ-ト	年4回	Vol.68【出演】①吉田幸子(シャンソ ン)、河野良(ピアノ)②有村純親 (サクソ)、蒲池恵子(ピアノ)他	目標値	1,250
		エントランス		実績値	1,100
11	アルカスSASEBO音楽アウ トリーチ事業「演奏家が やってくる!」	通年	【派遣演奏家】 ①亀子政孝(Cb)・野澤彩子(Pf) ②西川千穂(Ob)・増井ゆかり(Pf)	目標値	770
		市内小学校		実績値	614
	バリアフリー対応 (事業No.5 ランチ&ナ イトタイムコンサート)	9月14日(金)		目標値	
		中ホール		実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	5,882
				実績値	4,932

【妥当性】

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>会館の所在地である佐世保市は本土最西端の人口約25万人の都市であり、中核市の指定を受けている。平成31年1月12日には連携中枢都市圏形成に係る連携協約（資料1）を結んだ。財団は指定管理者として市から委託され、「佐世保市文化振興基本計画」（資料2）及び財団設立趣旨に則り運営を行っている。</p>
<p>ミッションは①質の高い文化芸術にふれる機会の創出、②市民の文化活動の活性化、③地域文化を創造する人材育成等である。行政・地域住民からは18年運営している実績が評価されているとともに、市内のホールが老朽化で閉館となった（資料3）ことから文化芸術の拠点として更に大きな期待を寄せられている。</p>
<p>これらを踏まえた上で、来館者へのアンケート（資料4）を基に会館の特長（資料5）を活かした公演のほか、市民の文化活動を支援することを目的としたさまざまな市民参加型事業を実施。ニーズ、収支の両面から適切に組み立てていると考えている。（資料6）</p>
<p>質の高いオリジナルオーケストラでの地域発信から、障害・国籍等を問わないジュニアオーケストラでの地域の未来を担う子どもたちの育成、そして誰もが文化芸術にふれられる機会の提供まで、一貫してそれぞれが関わり合いながら少しずつその輪を広げられるよう工夫を重ねている。</p>
<p>今年度は助成対象から取り下げた事業があったが、これは世界的ピアニストと地元の工芸品のコラボレーションという意欲的な取り組みに地元企業からの協賛の申し出があったためであり、企業と連携した文化振興の促進を行った良い事例となった（資料7）。</p>
<p>開館して18年が経過し、大規模な改修工事に着手している。利用料金制度の下で事業運営を行っているため改修によるホールの使用可能数が制限され利用料収入の減少が予測され、今後も自主事業の本数や内容を調整して対応することが求められている。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>（文化的）</p>
<p>島しょ部を多く抱え、人口減少が激しい長崎県において、クラシック音楽公演、特に多額の資金を要する質の高いオーケストラ公演にふれる機会がない市町が多い中、レジデンス弦楽四重奏団やオリジナル室内オーケストラなどの企画を継続し、毎年質の高いクラシック音楽公演を実施し続けていることは意義深いと考える。市民参加型事業は4つに分け、普及事業、育成事業、交流事業、創造事業として取り組んでいる。</p>
<p>（社会的）</p>
<p>財団の事業に関わっている豊嶋泰嗣氏（vn）や地域の人々（資料24）との出会いが財団の最大の資源と考える。</p>
<p>豊嶋氏は平成14年の開館2年目から様々な公演事業やセミナー等で深く関わっており、当時のセミナー受講生が現在はジュニアオーケストラの講師として携わっており、次世代の育成やコミュニティの発展に貢献していただいている。</p>
<p>また、ジュニアオーケストラでは地元演奏家が講師として関わることで地方での音楽人材の活性化を図るとともに、障害、国籍等を問わず子どもたちの参加機会を設けている。ロビーコンサート運営委員ではジャンルを越えたメンバーが集まることでその輪が拡大、4流派による茶道教室を行うことで伝統文化の継承を支えているほか、公演時の表方運営を行っているホールボランティアなど、文化を通じた地域のコミュニティを形成しており、これらの連携は地域の文化の発展に欠かせない存在となっている。小学校へのアウトリーチ事業、アウトリーチコンサート、演劇さーくるなど、財団が中長期で計画を立て、継続して取り組むことで、地域の文化的拠点としての役割を果たしていると考えている。</p>
<p>（経済的）</p>
<p>オリジナル公演事業を中心に、買い公演にもMプロジェクト（テーマ作曲家）によるプログラムを付加することで、全国発信を行い、会館の認知度を上げることで、コンベンション等貸館利用の活性化にもつなげ、街の賑わいの核となっている。</p>

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

「佐世保市文化振興基本計画」（資料2）及び「劇場、音楽堂等の事業の取り組みに関する指針」及びアンケート（資料4）と過去の実績（資料8）を基に目標と指標を設定している。

1) 公演事業

目標：最先端の文化芸術にふれる機会の創出、佐世保から音楽文化を発信すること
質の高い11公演の実施、Mプロジェクト等を活用した音楽文化の発信は行っており、アンケート結果総計（資料9）が示す通り全体の満足度は昨年度比1.2%増となっているものの達成度は9割となった。理由は60代未満の顧客層が全体的に昨年度比で軒並み減少となっているため。そんな中20代が前年度比1.3%の増となっておりハイバイ「て」など若者のニーズに訴求した公演を実施できたためだと分析した。

2) 人材養成事業

目標：将来的に地域の文化を支える人材の育成
ジュニアオーケストラはアウトリーチ1回、アカデミーへの入団11名（資料10）と達成。演劇さーくるは、昨年度実績17名に対し、目標20名、今年度実績は36名と180%の達成率（資料11）となった。演劇について学ぶ機会を高校生が求めていることに訴求できた結果である。ボランティアは広く呼びかけたものの現状維持となり達成率75%であった（資料6-7P、資料8-7P）。参加者の高齢化に伴う辞退が大きな要因で掘り起こしを行っていく必要がある。

3) 普及啓発事業

目標：様々な世代に舞台芸術を身近に感じてもらう等
アウトリーチ、低価格公演、親子向け公演、参加型公演と様々な事業を実施し、文化芸術に興味関心を持ってもらえるようなきっかけ作りを行った。アウトリーチ実施回数は、公演に付随するものに加え、授業形式のアウトリーチも実施し、会館の外で行う取り組みに力を入れている（資料13）。目標は達成しているが、無料・安価なコンサートの来場者を有料コンサートへ誘導するためのアプローチと測定方法（指標）が課題として残っており、引き続き分析を行いたい。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

財団の事業は年間（年度／4月～翌3月）で企画を行い、各事業の日程（期間）、内容、予算については、毎年、秋に行われる理事会において承認を受けることとなっている（資料13）。

それを基に助成金の申請を行っているが、ほとんどの事業は当初の予定通りの事業期間で申請を行っている。例外として、通年事業で年度の途中で未定であった日程等が決定するものはあったが、基本的に当初の事業期間で実施できている（資料6）。

ちなみに、事業実施までのおおまかな流れであるが、まず、実施日の5～6ヶ月前に事業ごとに検討会議を行い、事業担当者が作成した企画内容や収支予算を見ながら実施内容を固めていく（資料14）。

その後、担当者を中心に告知や関連企画などを行いつつ本番を迎え、終了後は会議にて反省点を洗いだし、フィードバック。最終的には終了報告として書類にて共有を行い、次の類似事業に生かす体制をとっている。

事業費についてであるが、決算報告（資料6）において、財団として健全な運営を行えている。

上記の事業期間・事業費に対する成果であるが、アンケートの統計（資料15）及び平成30年度経営状況報告書（資料6）の資料編等を基に分析した結果、一部事業においては改善、検討を行う必要があるものの、年間の事業全体としてはどちらも適切であると考えられる。

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

指定管理者第2期目にレジデンス弦楽四重奏団アルカス・クアルテットとジュニアオーケストラを開始、第3期目にオリジナル室内オーケストラ「チェンバー・ソロイスツ・佐世保」を立ち上げ、継続的な事業を行うことでマーケットを広げるよう努めている。

会館を象徴する人物としては、豊嶋泰嗣氏（vn）が挙げられる。豊嶋氏は平成14年の開館時から様々な公演事業やヴァイオリンセミナー等で深く関わっており、現在はオリジナル室内オーケストラ「チェンバー・ソロイスツ・佐世保」の音楽監督、ジュニアオーケストラのミュージックアドバイザーを務めている。豊嶋氏が地方都市で音楽監督を務めているからこそ、第一線で活躍している演奏家によるオリジナルメンバーでの室内楽公演を実施できている（資料16、17）ほか、ジュニアオーケストラへの指導で地域の子どもたちに対する付加価値の高い人材育成も行っている。

企画運営については、チーフプロデューサーをはじめとする事業部職員は音楽や演劇など自身のスキル・経験を用いて、年間を通じ1人の作曲家をテーマに掲げる「Mプロジェクト」をはじめ、開館20周年に向かう中で、アウトリーチの充実や演劇事業、音楽祭のリニューアル等、求められる役割に沿って舵を切っていることが対外的に評価されている（資料18）。

柱の事業であるオリジナル企画をはじめとする計7公演をMプロジェクトとして実施。（資料19）「チェンバー・ソロイスツ・佐世保」では国際的に活躍している長崎出身のハープ奏者・朝永侑子（資料20）をソリストに迎えるなど、オリジナル楽団のメリットを生かしたプログラムでお届けした。尚、これらは音楽専用ホールである中ホール（資料5）を活かした事業となっている。

公演、人材養成、普及啓発活動いずれも非常に高い水準の方々に関わっていただいております。文化拠点としての機能を最大限発揮できる事業を行ったと考えている。

公演事業では、吹奏楽とジャズのコラボレート公演のプログラムに、佐世保が舞台の「坂道のアポロン」の楽曲を組み込むなど各事業でユニークな取り組みを行った。

創作初演として、講談師・玉田玉秀齋が佐世保出身のシャンソン歌手・古賀力の生涯にスポットを当てた講談とアコーディオンのコラボレート公演（資料21）や、佐世保と札幌の俳優が共演し、両方の街で上演を行うという意欲的な取り組み（資料18-②・22）があった。

人材養成ではジュニアオーケストラがiichikoグランシアタジュニアオーケストラとの交流の一環として大分県で行われた国民文化祭へ参加。佐世保出身の宮原清美氏を演出家に迎え、令和2年度の公演に向けて初めて取り組んだ高校生に限定した演劇ワークショップでは予想を上回る反響があった。

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

ステークホルダーからの要求を把握する機会はしっかりと設けており、理事会、評議員会、市議会での質疑応答、市文化振興課、スポンサー訪問などが挙げられる（資料6）。地域住民からのニーズは主に公演アンケート及び年1回の友の会会員アンケート（資料23）を実施して把握している。

ジュニアオーケストラ地元講師や、ジャンルを越えたメンバーが集まるロビーコンサート運営委員、4流派による茶道教室、ホールボランティアなど、財団と一緒に事業に関わっている地域の人々（資料24）も重要なキーパーソンであり、今後も連携を図っていきたいと考えている。

情報発信の手段として隔月発行のタブロイド型情報誌「アルカスNews」、12ページの冊子型季刊情報誌「コンパス」、公式ホームページ、公式Facebook、県域FM（月1回・電話出演）、コミュニティFM（月1回・スタジオ出演）があり、さまざまな手段を使って多角的に広報を行っている（資料25）。

ホームページは平成30年6月にリニューアルを行い、スマートフォン用ページを作成したほか、継続事業の専用ページを作り、ブログを設けるなど、頻繁に情報発信ができるように改善した。

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

まず、人員についてであるが、現在の事業部の正規雇用率は100%となっている。（資料26）文化施設として専門性を高めるための研修に取り組むとともに（資料27）、財団内での研修（キャリアパス）や専門人材の新規雇用も検討している。施設管理部門に技術職員（舞台・テレビジョン照明技術者技能認定1級取得者）を雇用することで、利用者に様々なアドバイスが可能となった。

九州類似ホール連絡会議に在籍しており、定期的な会議への出席、情報の共有や、事業の連携（平成30年度はジュニアオーケストラ／大分）のほか、教育機関との連携も行っており、長崎県立大学、長崎国際大学からのインターン受け入れや、大学の研究の一環として来館者を対象に共同でアンケートも行った。

ホールボランティアは年度毎の登録制となっており、接遇研修や消防・防災訓練への参加を重ね、社会に貢献できる人材の育成の場となっている。

財源確保の取り組みとして、オフィシャルスポンサー1社（総額の内1部を公演に協賛）、コーポレートスポンサー1社に事業運営への資金をいただいている（資料28、29）。ジュニアオーケストラでは法人・個人スポンサー制度（資料30）を設けており（現在は法人16社、個人19名）、いただいた資金は楽器購入・運営資金として使用している。年1回の定期演奏会、開講式への招待のほか、写真や報告書においてフィードバックを行っている。友の会制度「アルカスクラブ」（資料31、32）では、会員限定バスツアーや優待公演を行っている。その他、文化庁・地域創造などの助成金（資料33）を活用し、事業運営を行っている。

アルカスSASEB0は令和2年度に開館20周年を迎えるが、上記のように、佐世保市文化振興計画に基き、行政・教育機関・文化施設との連携を図り、文化にふれる環境づくりを強化していく。